

グローバル・ホークの三沢飛行場への一時展開について

- 米空軍グローバル・ホークの一時展開については、2013(平成25)年10月の日米「2+2」共同発表において、「2014年春から、グローバル・ホーク無人機のローテーションによる展開を開始する」旨記述されていたものです。
- 現在、グアム島のアンダーセン米空軍基地を拠点に運用しているグローバル・ホークの夏季における活動は、台風など悪天候の影響により制約を受けています。
- 三沢飛行場に一時展開することで、より安定した運用が確保され、米軍の情報収集能力が一層向上し、これによりアジア太平洋地域における米軍の抑止力の維持・向上につながり、我が国の安全並びに地域の平和及び安全の維持に寄与することになります。

グローバル・ホークの概要

- 情報収集、警戒監視、偵察を任務とする高高度滞空型無人偵察機です。その特徴は、
 - ・画像等の情報収集を実施、
 - ・攻撃能力なし、
 - ・高度50,000フィート(約15,000m)以上を航行、
 - ・無線通信及び衛星通信により地上から操縦などです。
- これまでにイラク及びアフガニスタンにおける作戦、東日本大震災におけるトモダチ作戦、ハイチにおける人道支援などの任務等に従事しています。



全幅	39.9 ^尺
全長	14.5 ^尺
全高	4.7 ^尺

平成27年の一時展開概要

- グアム島のアンダーセン米空軍基地を拠点に運用しているグローバル・ホーク4機(ブロック30型及び40型各2機)のほか、運用のためのパイロットや整備士等約70名程度の人員必要な機材が三沢飛行場に一時的に配置されます。
- 機体の展開は、**2機は7月上旬頃から11月頃まで、残る2機は7月上旬頃から12月下旬頃まで**となる予定です。ただし、天候等の影響により変更される可能性もあります。
- **週数回程度**の運用を予定しています。
- 離着陸時は、三沢飛行場に所在するパイロットが地上より操縦し、離陸後の一定の高度に達した段階で米本土に所在するパイロットが地上より操縦します。
- **ブロック30型と40型は、異なる機能を有する情報収集用機器を搭載していますが、エンジンを含め、機体構造が同じであり、安全性及び騒音の面で違いはありません。**

安全な運用の確保

- 三沢飛行場に展開する予定の型式のグローバル・ホークは、これまで**重大な事故は生じていません。**
- グローバル・ホークは、有人の航空機と同じく管制の指示に従って航行する機能等を備え、また、我が国における運用に際しても、**飛行場の使用や運用の安全性確保の観点から調整を要する事項等は日米間で協議の上、手続き等を定めています。**
- また、**原子力関連施設の上空を回避する飛行経路の設定や民間航空機への影響を最小限とするなど必要な調整が行われ、運用されています。**